

## H.K コンサルティング会社勤務/コンサルタント

### 東京大学大学院

#### 教育学研究科卒

修士課程では自分の限界を知り、ひたすら向き合う2年間であった。正直、かなりきつい2年間であった。けれども、今振り返ると、多くのいい思い出もあり、そのキツさも良いように意味づけできる。

私はこの度東京大学大学院を修了した。学部は大阪大学を卒業し、卒業論文は満足のいくものが書けたと自負している。学部時代は必須単位を大きく超えて講義を履修し、研究にも力を入れた。東京大学大学院に入学するまでは少しだけ、研究や勉強に対する自信があった。

大学院に入学後、コースでの自己紹介では当たり前のように研究関心を問われた。むしろ、それにしか興味が無い。これまでの環境とは明らかに違うことを感じとり、入学した段階から不安ばかりであった。また、東京大学ということもあり、特に学部から東大に所属している同期があまりにも輝いて見えた。何もかも完璧に見え、少しだけ自信があった研究や勉強も全く太刀打ちできなかった。さらには、入学後すぐ就活を意識し出したことから、自分のレベルと同期のレベルがどんどん乖離していくように感じ、非常に辛かった。

就活を一早く終え、勇気を出して同期がいる研究室に通い始めてみた。すると、完璧で非の打ち所がないように感じていた同期にも苦手分野があったり、研究と同様に趣味を楽しんでいたりと、様々であった。自分の中で彼らに勝手にイメージを持ち、敬遠していたことを反省し後悔した。その後多くの時間を共に過ごすことで私にとって同期は非常に重要な存在となる。時に、深夜まで議論をしたり、たまには遊びに出かけたり、楽しい時間を過ごした。研究だけでなくプライベートの悩みを共有することで、お互いのことをより深く知れた上に、なんとしても同期と一緒に修了したい気持ちが強くなった。同期がいなければ大学院を無事に修了できていたか怪しい。それくらいとても大きな存在である。

大学院の授業では、そもそも学部時代のような講義がなく、ほぼ全てがゼミ形式となる。難解な文章を参加者で読み進めていくスタイルである。求められるレジュメのレベルは高く、さらに枚数も多かった。学部時代はレポートが好きで得意だったが、大学院でのレジュメは何週間も作成に費やした上で納得がいくものは書けたことはなかった。何をしてもうまくいったと感ずることができず、けれどもどうしたらうまくいくかわからず、ずっと雲をつかむようだった。今思えば、先輩や同期にコツを積極的に聞いてみるべきであった。しかし、当時の私は完全に自信を失っており、これ以上自分が出来ないことに自覚し向き合い、さらには他人に自分の出来なさを知られるのが怖かった。結局、ゼミに関しては最後までうまくいったと感じたことはないが、議論は大変勉強になった。

大学院修了後働き始める予定だった私には、最後の自由に時間をコントロールできる期間であった。そのため、研究のみならず多くのことに挑戦した。

大学院1年の時の夏休みには、北海道平取町二風谷で開催されたアイヌ文化を体験するワークショップに参加した。漫画・アニメの影響で知名度が上がりつつアイヌだが、エンタメの一部ではなくその地域に根ざし

た「人間(ここではアイヌ)」や「文化」を知ることができた。さらには、全国から集まった大学生・大学院生と5日間を過ごし、様々な背景の人に出会えた。非常に興味深いワークショップであった。

また、大学院1年の秋に、初めて学会で発表した。何もかもわからない状況で、半ば思いつきで参加表明をしたが、発表準備において自分の研究をさらに深く理解することができ、客観的な意見を他の研究者からいただけたことで、自身の研究の良さや課題も把握できた。ここでも普段では関わることのできないような他大学の大学院生や研究者の方々とお話することができ、有意義な時間であった。

最後に、大学院2年の夏休みでは、ドイツに短期留学をした。ドイツは以前からずっと憧れていた場所であり、さらには COVID-19 によって長期留学が白紙になったこともあり、学内の選考に採択された際には嬉しく、同時に不安でもあった。実際にドイツで暮らしてみると、思ったより自分の英語は問題ないこと、一方で食が合わずホームシックになったことなど、日本にいただけではわからないことがたくさんあった。また、ドイツは私の研究においても非常に重要な国であるため、博物館などに行き知見を深めた。

研究以外の部分では、非常に充実していた大学院生活であった。願わくば、もう一度修士論文を書き直したい。苦笑。こうして振り返ると、多くの人に出会い支えられた修士課程だったと思う。今一度、彼らに感謝を伝えたい。

この春からコンサルタントとして働いている。求められるレベルが高く苦戦する日々であるが、大学院での反省を踏まえ積極的に先輩とコミュニケーションをとり、自分の欠点に向き合いつつもそれを埋めようと邁進する日々である。やりがいがあり、楽しい社会人生活を送っている。

また、私には新たな夢ができた。もう一度大学に通い、自分が関心のある勉強に再度取り組みたいと考えている。この夢を自分のものにするためにも、仕事を頑張り、夢を掴み取っていききたい。